



丸山散布の眺望

その昔、先住民族アイヌの人々が火散布沼の周辺に生活を営み、アイヌ民族の神事を行ったとされる「丸山散布」は、火散布沼と平行する道路両側に民家を密集している。そもそも丸山散布の背後の、なだらかな優雅な二等辺三角形の山裾に民家や、小屋や波止場や真白い漁船が三々五々のんびり見える。

この風景は、山の反対側の学校の前の道路から眺めると、優雅な富士山形の二等辺三角形の誠に優雅な山裾に前述の風景が重なる。

眼を凝らすと、この小さな山の斜面にまた新緑が伸び切っていない、背の高い樹木がいかたまりずつ枝を上げ、或いはエゾマツの大木がしつかり斜面から大きな影をつくっていた。この写生の取材を行っていた六月中頃は濃霧が時折り水面に広がり、沼も山も一様にどんより煙り、漁師さんは岸壁に船を止めてエンジンの調子をみていた。

(ペン&スケッチ 小椋 昭三)

## ひとのうごき

5月末現在 (前月比)

- 人口：6,658人 (- 5)
- 男：3,234人 (- 1)
- 女：3,424人 (- 4)
- 世帯数：2,474世帯 (+ 3)



### おたんじょう

- |           |              |
|-----------|--------------|
| 新川森       | 詩龍くん (圭介さん)  |
| 茶内緑・永井    | 優成くん (秀樹さん)  |
| 藻散布・永坂    | 大虎くん (信明さん)  |
| 茶内旭・渡邊    | 颯祐くん (栄さん)   |
| 暮帰別・中山    | 葵ちゃん (慶則さん)  |
| 茶内旭・川瀬    | 寛人くん (昭人さん)  |
| 茶内拓北・天川   | 凜音ちゃん (暁誠さん) |
| 霧多布東四区・船山 | 詩笑ちゃん (大さん)  |
| 茶内拓北・天川   | 寧心ちゃん (記一さん) |



### おくやみ

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 熊牛東福・伊藤   | 茂安さん (79歳)  |
| 姉別南・加茂    | 幸子さん (70歳)  |
| 奔幌戸・中下長四郎 | さん (87歳)    |
| 渡散布・梅村    | 妃史さん (58歳)  |
| 茶内共生・峠    | ミエ子さん (86歳) |
| 霧多布一区・鳥居  | ふさいさん (86歳) |



## 俳句

- ポチの忌や墓辺満開タンポポ咲く  
福沢 睡蓮 (茶内)
- 湿原に虹高々と輝やけり  
小椋 昭三 (暮帰別)
- 幸せや居ながら嬉れし独活の束  
酒井 梅子 (茶内)
- 周期かも冷たい初夏の海の風  
鈴木 徹夫 (霧多布)
- 春の温泉や遊ぶ川湯の山嗅ふ  
吉本 弘 (霧多布)

## 短歌

- 夕焼けの朱がまぶしくて閉ざしゆく空に希いの及ばぬ日暮れ  
松永 真澄 (茶内)
- いのこづち髪にびつしり戻りきし子に激怒する母たりし日も  
二瓶 良子 (茶内第三)
- 窓のべの鉢に咲きたるアマリリス唄ひ出しさう花の喇叭が  
福沢 睡蓮 (茶内)
- 草あおく伸びきて春を告ぐるなり中学生になりしか汝も  
相原 睦子 (茶内)

## 詩

故里の海

夏の陽射しを受けて  
きらきらとせん光を放つ海  
遠く窓岩のあたりに小さな船が  
白い航跡を残して通る  
静けさを求めて展望台より  
挑むれば色とりどりの村の屋根が  
湿原に囲まれ海に向って並んでいる  
はるか砂浜では一条の飛沫に  
鳴等がとび交う

のどかな故里の夏の海である

老法師

朝な夕べの門づけの  
鈴の音いろの清しさよ  
まどう法衣も黒染めの  
法師の旅は果てぞなく  
村を巡りて山を越え  
湖の里の夕暮れに  
夜露に濡れて宿もなし  
夏のひと夜の明け方に  
いづれの国へか旅ゆける

徳光 千秋 (琵琶瀬)